



日本共産党・住民協働市会議員 大西 一三 議員

園部中心市街地に にぎわい戻るか

早期に完了させることがまず必要 **市長**

問 事業の進み具合と事業完了の見通しは。拠点施設の計画は。
市長 平成23年度完了に向け取り組んでいる。事業費ベースで70%となっている。拠点施設は、専門家や住民の意見を聞き、仮称「賑わいづくり協議会」で検討いただく。事業が進行するにつれ、住民の不安は広がっている。関係者だけでなく、広く市民への説明会など必要と考えるが。

市長 今のところ説明会は考えていないが、必要であれば考える。
問 近隣商店街との連携、調和をどのように考えているか。
市長 まずは事業が早期に完了することが中心市街地の活性化につながることを確信している。

市長 理事の一人である私が応える内容ではない。
問 市としての指導、助言の内容とその後の対応について伺う。
市長 理事の一人として長生園の健全な運営に努

力していく。
問 判決文は、全588件のうち582件約2900万円の不明金の発生は長生園とその幹部にあると指摘していると考える。長生園内で真相究明の努力が重要と考えるが市長の所見を伺う。
市長 裁判では起訴された部分に対する判決しか出ていないのでコメントする立場にない。疑義があるなら裁判で解決されるべき問題である。



活緑クラブ 松尾 武治 議員

業者のいいなりで多額の 財政負担

入札は厳正に執行した **市長**

問 防災行政無線は、旧八木町からの計画で、特定メーカー仕様が操作卓を中心に示されている。全市の整備には10億円前後の財源が伴う。仮に10億円として2割を切る。競争が働いた自治体と比較すると5億円の削減になる。3月議会で市長は最大の効果を最小の経費で出来たと云われたが何を根拠に云われたのか根拠になる数値を示し市長の見解を問う。

市長 入札は厳正な執行だったと考えている。今回の落札率について特別な原因があったという認識はない。
問 自治法第2条第14項には、「地方自治体はその事務を処理するにあたっては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最小の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない」と定められているが、市長は自治法の認識が全くない。

契約の基本は、一般競争入札となっている。八木地区の発注は、指名競争入札が有利と施行したが、美山地区は一般競争入札を施行した。上位法の変更のない中で、何を根拠に入札の方法を変えたのか根拠を問う。
また、今回の入札で、市長の政治姿勢や努力不足から、多額の税金が無駄になったと考える。

公正な競争の促進が図られる。質問の中でご指導賜った件は十分に受け止め入札制度の改革に取り組みたい。



南風会 中川 幸朗 議員

経済危機とその対策 について

市長 経済対策雇用促進に努める

問 市長は市内の厳しい経済状況に対し具体的にどのような経済対策を実施するのか。
市長 本市域における経済状況は長年にわたり大変厳しい状況が続いている。南丹広域振興局やハローワーク、また京都ジョブパークなどの連携を図り、経済対策雇用促進に努めたい。
問 多方面で市に貢献をされている市内事業者発注機会の増加を

へ、経済危機対策臨時交付金を活かし、政策的に発注機会を増すとともに、市内事業者へのスキルアップを図る事業実施が必要ではないか。
市長 経済危機の中で、市商工会ではプレミアム商品券を発行し、商工業の振興や経済活性化に努めていただいている。発注業務は入札制度等との絡みもあり、積極的にどういう手立てができるのか、様々なことも勘案し、発注機会が増

やせるよう努力をしていく。
南丹市全域でのバス交通網の構築の進めは
問 市域での各立場の方により交通弱者への交通手段をどう確保していくのか、合意形成を図っていくことが必要である。
住民協働の中で市がコーディネーターとして役割を果たし、いろんな手法や手段を取捨選択し、バス交通網体系の再構築を図っていく必要がある。また、園部八木線につい

て路線の拡張、時間帯の変更等により効率的、効果的な路線の改善ができないか。
市長 バス問題は重要な問題と考えている。市がコーディネーターとしての役割を果たしていくべき。



丹政クラブ 森 爲次 議員

園部公園の施設整備を

市長 使いやすい施設に再検討が必要

問 市民の憩いの場として、また、生涯スポーツ健康づくりと多種多様に使われているが、使用場所によって、「トイレ」まで遠く、また、老朽化しており不便をかけている。今後、高齢者や障がい者などの弱者の方も利用してもらうためにも公衆トイレの設置が必要と考えるが見解を伺う。
市長・教育長 現在の利用状況や、近接トイレの老朽化、また、今後の動向もふまえ、せつかく作

った施設をより使いやすい形の中で再検討が必要と考えている。
イベント事業の考え方は
問 地域イベント（各種団体含む）は、元氣・感動の源であり、地域活性化や市民協働の始まりでもあるが、今後の考え方は。また、多くの宣伝効果のあった日吉ダムマラソンの事業としての位置付けは。
市長 地域イベントは市の活性化につながり、将来にわたって広がっていく

ものと考えている。諸問題や見直し等があるが、市民協働につながるよう協力体制をとり参画していきたい。また、日吉ダムマラソンは、未永く愛される大会として継続していきたい。
鳥獣の捕獲対策は
問 防護対策が進むなか、住民上げての捕獲対策について伺う。
市長 現存、捕獲以上に繁殖率が高く、大変大きな課題と位置付けている。今ある協議会

をより充実し、関係団体・地元など連携をとり、市も真中になつて被害軽減に努めるなかで、生産意欲の向上と経営安定のため、努力していく考えである。